



保育園の餅つき会（12月22日）

上松町議会議長

村上眞章

新年明けましておめでとう御座います。上松町の皆様におかれましては御健やかに初春をお迎えのことと、心から御慶び申し上げます。

平素は上松町議会に対し、皆様より格別なる御高配を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、平成二十三年を振り返りますと東日本大震災をはじめ全国各地で大災害に見舞われた一年でした。

被災されました多くの皆様に御見舞い申し上げますと共に一刻も早い復旧復興を願うものであります。

さて、四月には町議会議員選挙が告示され、無投票ではありましたが十名が当選し、五月の初議会において議会の構成も成りました。議員一人一人が議会の名に恥じることなく其々の活動しております。

十一月には、昨年三月定例会において議員自ら定めた「上松町議会基本条例」に基づき議会主催による初めての町民懇談会を開催しました。参加者の皆様より多くの御意見御要望等を頂戴致しましたが、議会に対しての叱咤激励と有り難く受け止めさせていただきました。

本年も議会は山積する諸問題・課題に対し、行政・住民の皆様と手を携えて果敢に立ち向かって行く覚悟でありますので御支援・御協力の程を宜しくお願い申し上げます。

平成23年度

一般会計補正予算(第4号)

減額 1,883千円 総額 3,315,161千円

主な歳入

- ◎地方特例交付金 190万円増
- ◎国庫支出金(こども手当) 718万円減
- ◎寄付金(ふるさと納税) 20万円増
- ◎雑入金 107万6千円減
- ◎町の借入金 340万円増

主な歳出

- ◎人件費(給与改定及び休職者等) 813万円減
- ◎本町公衆トイレ新設 405万円増
- ◎高齢者救急キット購入 43万円増
- ◎予防接種利用者減 700万円減
- ◎中小企業保証料 200万円増

主な質疑応答

問 高齢者救急キットの購入総数は千五百個とのことだが、その配布の基準はどうなっているのか。

答 七十才以上の一人暮らしあるいは二人暮らしの家庭に千セットを配り障害者世帯を優先的に配るが、要支援者等の配布台帳を整備する予定。

持病等も勘案しヘルパー等と協議中だ。

問 キットの使用も適確にできる様説明の徹底を求めたい。これから厳寒期となるが、水道の無い小さな集落にはどの様に対応するか。

答 そうした集落への支援は継続しているが、抜本的方法があるのかも含め検討している。水道施設の無い家屋の高齢者には冬場のみ介護施設で過ごしてもらうことも検討中だ。

問 本町地区に公衆トイレを造るのは良いが、維持管理の予定はどの様になっているか。

答 維持管理は本町が任せ

てくれということなので、本町の皆さんに御願いうることにしている。

問 トイレの管理は本町に御願いうるとしても維持費はしっかりとの方針が要ると思うが如何か。

答 最初は本町公民館に造ってくれとの要望だったが、中山道の観光客が玉林院のトイレを拝借する例も多々あり、公衆トイレとして造る次第だ。したがって本町の皆さんも随意に使えることから維持費も負担して頂くことになった。

問 本町区が公衆トイレの設置を要望した経緯もあり、維持管理費も本町区が持つと言ったと思うが、維持管理は長期に亘るので本町区が全額負担するには疑問が残るがその考えを伺いたい。

答 本町区から再三公民館にトイレ設置を要望され、観光客も利用できる様名目は公衆トイレとなっているが、公民館裏側に設置した為実質的には公民館の付帯設備的なもので、本町との話し合いで区側が負担する

合意に基づいている。しかし未来永劫と思っている訳ではない。

問 狩猟免許取得の補助について、町で狩猟隊を編成すると聞いているが、事実関係を詳しく説明願いたい。

答 産業観光課を中心に銃が一名、罾が二名、臨時職員の見要員二名で編成し実施している。

問 有害鳥獣駆除で捕獲した猿はどの様に処理しているか。

答 捕獲地の近くで地主の承諾があればその近くに埋めるが、原則的には町が借地した場所に埋設している。

問 入札について今年六月から最低制限価格を設けた入札制度に変わったが業者から何等の意見はあるか。

答 六月から新しい入札制度で運用しているが今のところ苦言等はない。

問 入札経過書を調べたが六月から十一月迄に十七件の入札があった。予定価格に対する落札率は八四・七%、平均が九五・一%で町民の不信感を払拭するには程遠い感がある。山

形村では保育園建設で八億四千万円弱の最低制限価格と同額の落札があったり、三重県桑名市では小学校耐震化工事で競争入札妨害事件が新聞報道され、津市では市発注工事の設計金額の漏洩事件で市職員が逮捕される等入札絡みの事件が頻発している。最低制限価格を設けても問題は山積しているが所見を伺いたい。

答 最低制限価格を設けたのはいわゆるダンピングや不良工事で成果品に不備が出ない様にする為だが、現段階では不具合や異議申し立て等クレームは無いのでしばらく様子を見たい。総合評価方式も一件実施したが今後の検討課題としたい。

問 何も問題はないということだが他県のこととはいえ最低制限価格も透明な入札を確保する試行のひとつなのだから、他の方法を試行する必要があるのではないか。

答 今年から試行を始めたばかり故しばらくは現状で運用していきたい。

平成23年度 特別会計補正予算

(単位 千円)

主な歳入		主な歳出			
【国民健康保険特別会計】	補正額	19,721	総額	511,733	
国民健康保険税	△ 3,535	保険給付費		8,443	
療養給付費交付金	24,481	後期高齢者支援金等		632	
前期高齢者交付金	△ 1,477	予備費		10,620	
【公共下水道特別会計】	補正額	△ 10,548	総額	273,724	
国庫支出金	△ 9,000	総務費		5,024	
繰入金	5,000	建設事業費		△ 15,272	
町債	△ 6,600	予備費		△ 300	
【水道事業会計】					
収益的収入	補正額	201	収益的支出	補正額	1,302
	(総額)	131,863		(総額)	125,649
営業収益(検査手数料)		200	施設動力電気料		1,288
他会計負担金		1			
資本的収入	補正額	0	資本的支出	補正額	△ 2,753
	(総額)	77,701		(総額)	151,587
			設計業務委託料		△ 2,488
			賃借料(車両リース代)		△ 150

主な質疑応答

《公共下水道》

問 下水道の加入率はどのくらいになっているか。

答 人口で見ると、九月末現在で六十七・一パーセントとなっている。順調に加入が進んでいるので増加していくと思う。

《水道会計》

問 水道料不能欠損の総額はどれくらいか。

答 ここ一、二年の間は、数万円である。
問 不能欠損処理した場合でも引き続き催促、回収はしているのか。

答 不能欠損処理は、そのほとんどが行方不明であり、追求できない場合である。中には、行方が判明し回収できたものもある。欠損処理後においても回収努力していく。

《木曾広域連合ふるさと町村圏基金に係る出資金の権利一部放棄について》

「地域広域市町村圏の振興のための事業」に資するため、ふるさと市町村圏基金が設置されています。今回は、スポーツ振興事業、公共サイン管理事業そして上下流交流事業に合わせて八百三十万円を、基金の一部を取り崩して充当するものです。

上松町は、構成町村の基金出資比率により百三十万九千円の負担となるため、同額の権利を放棄するものです。



上下流交流

町を誇り協働する風土の確立を いっぱん質問

町の観光振興対策で国との協定 締結の考え方を問う

町長 滑川砂防公園予定地、国との協定を結び多
目的使用を考えたい

中村今朝男議員



問 赤沢、寝覚の床中心に
観光振興対策を伺って来た。
今回は滑川砂防公園予定地
が完成し、維持管理の進め
方について、国土交通省と
の協議と進捗状況はどうか。
建設水道課長 国で利活用
する範囲を決定後、今年度
中に町と国で協定を締結し
たい旨伺っている。現在、
国で原案の作成に着手して
いるとも聞いている。今後
事例等も踏まえながら町と
国が調整を計り進めたい。

問 四号堰堤の下方に約
九千平方メートルの埋立
地が完成、国は一部をヘリ
ポート敷きとして活用以
外、未定との事、町が運動
公園等で整備する考えは。
課長 公園広場の利活用で
町として、滑川砂防公園の
検討委員会最終答申に従い
今後進めたい。自然に親し
む公園、基本理念を尊重し、
利活用を計りたい。又、多
目的な利用方法を検討して
いる。

問 滑川砂防事業は広大な
面積の中で進められている
下流域住民の安全、安心の
基礎を築いた。又、国と協
定を結んで多目的利用も可
能となったが、町として利
用区域の範囲は定まったか。
課長 範囲は協定書の中で
利用出来る部分を予定、利
用範囲は砂防工事により、
平常時に安全性が高まった
場所を中心に公園として進
める。四号堰堤から八号堰
堤までの区域が想定される。
問 連絡協議会が平成十八
年から二十年にかけて協
議、その後開催されていな

い。以前、連絡協議会の中
で今後も進める答弁もあつ
たがその後の対応は。
課長 連絡協議会は平成
十八年六月、目的に賛同
する住民を中心に協議会が
発足し協議を重ねてきてい
る。砂防事業の進捗状況に
合わせた協議と事業協力、
今後は完成した公園につい
ての組織をどうするか考え
たい。
問 現在の連絡協議会の機
能は消滅し新たな組織か。
課長 町と国が協定を結ぶ
段階で検討したい。

町長 砂防事業で協議会の
協力もあつた。公園を管理
運営を今後進める中で、当
協議会の再編含め検討す
る。日本を代表する滑川砂
防事業として、多くの人達
が現場を訪れ、土石流の実
態、歴史を学び多目的機能

町長 資源を面的に繋いでという提案賛成。
ニーズも多様化、受け入れ体制づく
りに町も協力していきたい

塩谷勲司議員



問 町は今まで赤沢中心の
観光を進めて来た。今年は
道路の通行止めもあり入り
込み客は昨年比二万人の減
だ。自然休養林のヒノキは
町民の誇りだが、果たして
どれだけの経済効果をもた



滑川第四堰堤下の埋立広場

の発揮の場の提供、公園周
辺の植樹や環境整備も進め
る考えでいる。

これからの観光のすすめ方につ
いて

らしているのだろうか。

赤沢の課題の見解を伺う。

①休養林開園期間が半年で客の滞在期間も短い。

②焼笹の先の道路狭く危険。

③町民の関わり方、どうか。

町長 ①は厳寒の地で冬期営業の計画無く、水道や林鉄の安全面で無理。②は頭が痛い。マイカー規制のシャトルバスも考えている

が手続に手間要し直ぐには不可。③は町内雇用だが通年でない為、巾や種類狭い。

問 上松には歴史的、景観的にも素晴らしい物が沢山ある。これらを組み合わせる。具体的な観光を目指すべきだ。

具体的には、赤沢と寝覚の床を二本柱とし、棧、上町から本町への中山道と宿

場跡、上松木材役所跡、寝覚の床と宿場跡、駒ヶ岳と山麓の農地、東野の阿弥陀堂そして南へ繋がる中山道を線で結べば素晴らしい財産

であり武器となる。本町地区で計画中のトイレも公衆トイレとして整備出来れば旅人にも喜んで貰えプラス

となるに違いない。寝覚の床は知名度抜群だ。過日発展会を中心とした皆さんの貴重な積極且つ建設的意見を拝聴する機会を得た。裏寝覚にかけての一带を整備し、きれいな空気を吸い、木曾川の流れを見ながらゆったりとした気分

で歩ける場所にしたらと夢を語ってくれました。そこには来年制定二十年になる町

花オオヤマレンゲ、サユリそして四季の野の花を植えれば旅人の癒しと心からのもてなしになる。オオヤマレンゲは関係者の長年の努力もあつて中学校やホテル周辺、寝覚の床、街中にも増えつつあり花の町として発展する可能性充分だ。

町長 資源を面的に繋いでという提案に賛成だ。客層による多様なニーズをしっかりと把握し花を中心としたマップを作り客を呼びたい。裏寝覚の落石等の通行止はお金もかかるのでやむをえないと考えている。

問 子供、若者、中高年が農林体験、歴史探訪で短期滞在型の旅の提供。これには農家の皆さんと町民の協力で地元食材を生かした上松ならではのものをなしにする。多くの旅人が日々北から南から訪ねてきています。帰宅後上松はいい所だと宣伝してくれるのではない

町長 旅の対象は団体、家族連れ、学生、中高年と巾広くニーズも多様、受入体制作りに町も協力したい。

新年度予算にどう取り組むか

町長 総合計画が基本。公民館のリニューアルを実施。庁舎改築検討組織を立ち上げ

澤木政良議員



づくりをすすめた。過疎を嘆くことなく、上松町民としての誇りと自覚をもつて、一人一人が小さな幸せを大事にすること

を基本に捉えたい。社会整備（水道等）のハード的投資の返済期に入り、新たな設備投資は現段階では無理だ。しかし、人づくりまちづくりの拠点になる公民館の整備には着手したい。

問 二十四年度予算編成期にあたり、①重点施策について ②新施策について ③役場行政の改善について

町長 各課で予算の積み上げ中であるが。①施策、予算の基本は第5次上松町総合計画である。過疎化、人口減少による国全体が右肩下がりの中で先が読めない状況だ。

町の財政も厳しいが、現状認識の上に、地域が元気になる施策、観光を中心に創意工夫をこらし、町の特性、環境を考慮したなかで将来を担う子供、若者たちの情操豊かなたくましい人

き中山間地農業施策として、未整備箇所の基盤整備をすすめたい。地域独自の風景歴史を大事にした、まちづくりの新計画策定にもとりくみたい。

③役場行政の改善は、危機管理、コンプライアンスをふまえた組織の強化をはかりたい。時代に合った役場の機構も見直したい。

問 町長は任期折り返しの



町花 オオヤマレンゲ



耐震化等の改修が行われる公民館

前期をどう評価するか。
 町長 施政方針を先送りしない、町内全体のバランスと住民生活中心にとりくんできた。新たなインフラ整備に手をつけられる段階にないが、総合計画を施策の基本としてまちづくりを進めたい。

組織体制を重点に、職員の質の向上とバランスのとれた行政体に脱皮したい。
 問 下河原国道沿線の竹木を整備し、上松のシンボルである木材貯木風景の見透しをはかれないか。
 産業観光課長 町長サイドとしてとりくんだ経過もある。地主との協議、予算面、関係箇所との折衝を含め、検討を深めてみたい。

町全体が危険個所の住民をどう守る

町長 情報を開示し、早めの避難を呼びかける

永井嘉男議員



町行政委員の主な質問
 問 地域交通活性化協議会での報酬は時間にしたら、皆さんの支払いをされているのではないか。
 町長 行政委員を務める為

の資料収集等その他の拘束した業務もあり、一定の報酬で定めても良い。
 問 税金が使われるなら、少なくとも一週間前には資料の配布をしてやるのが本来の姿だと思う。会議を開いたという体裁を整えている様にはかえない。
 町長 事前に皆さんにしっかりと説明した中で、意見を求めているので、誤解がないようにお願いしたい。



避難訓練をする住民 (9/1 防災訓練)

問 委託業者に報酬は支払われるものではない、と考えるがどうか。
 住民福祉課長 受託業者の方は弁護士に確かめた結果、委員としての対価で問題ないとの結果になった。
 問 議員もこの委員となっていて報酬を支払われるが、二重の報酬を受け取る事になると思い辞退したがどうか。
 総務課長 公職選挙法で、公職にあるものの寄付の禁止があり、いかなる場合であっても辞退する事は出来ないとの問題がある。二重

報酬については議会の中で検討して頂きたい。
 問 活性化協議会は前回まで報酬は支払われていないがどういう事か。
 住民福祉課長 認識不足で前回までは支払いをしなればいけない所を払っていなかった。
 問 役場の職員一人ひとりが税金を使って仕事をしているという事を考えて、仕事をやる姿勢が大切ではないかと考えるがどうか。
 町長 総合的に勘案して検討する。
 ハザードマップの主な質問

問 ハザードマップはどのような趣旨で全戸に配布されたか。
 総務課長 災害が発生する箇所を住民に周知する為マップ等を使って行くと法律で決まっている。
 問 上松町全体にある現状で、

住民をどう守っていくか。
 町長 情報を開示して早目の避難を住民に呼び掛けて行く事で、的確に周知して行く考えである。
 問 地域でどういうふうに逃げるかとか、一人暮らしや寝たきりの老人を助けて行くとか、逃げる道路を整えて戴く。
 一、まちづくりの一層の推進を
 一、原発被災地の子ども支援を

担当課長 町長 ○役割を担うセンターで ○子供達を元気づけたい

木内寿一議員



問 まちづくりについては、その拠点整備の考え方と上松の資源を取り込んだ活用案を基に、更に推進して欲しいが、協働を進めるまちづくりの現状をどう捉えているか。
 町長 町村合併の議論を機に、取組みが進み住民の意識も自立の町という方向性の中で、汗をかく姿が各所で見受けられた。自助・共助が進み自発的な取り組みや活動がなされている。
 問 現在、様々な分野で活動を続けているグループや団体がたくさんある。故郷の味を活かした料理作り、観光地の美化清掃活動、伝統文化の継承保存そして子供のスポーツ指導や高齢者の生きがい活動等があり、

こうした団体を核とした「まちづくり協働の会」のような運営は考えられないか。

町長 活動を上松町の輪としてつなぎ・拡げていくには、その役割を担うコミュニティセンターあるいはまちづくりセンター的なものがある。まちづくりの大きな拠点となっている公民館にその機能を合わせ持たせていくことが良いと思う。

まちづくりに関わる方達の情報交換をする場を設け、運営する中味を十分煮詰めに行きたい。また自発的な参加を大事に考えており、

町は連携を図り、活動のコーディネート役を果たしたい。

問 町の企画で進める産業おこしは、具体的にどのようなものがあるか

産業観光課長 伝統工芸や食品を主に見直していく。現在、ホウの木の栽培、吉野カブやヤマメの甘露煮の商品化、更にオオビラ、米粉そしてエゴマを使った食品の商品化を考えている。特産品開発センターを中心とした第六次産業を観光産業に合わせて商品の開発をしたい。

問 発電等の自然エネルギー利用の取組みはどうか。

住民福祉課長 太陽光発電、風力発電そして地熱発電については、地域の日照や地理地形等から難しいが、森林を持つ小河川を利用したミニ水力やマクロ水力は地域にマッチしている。

被災地の子供たちサマーキャンプ（軽井沢）



問 福島第一原発事故による放射線被ばくを避けて、外出を控えている子供達への支援はどうか。

産業観光課長 本年十月に計画していたが、落石災害で実施できなかった。今後

町の活性化は進んでいるか ①町政 ②人材育成 ③町民の 幸せ（健康）の実現

町長 活性化は道半ばだが、
教育長 今後も過疎対策に徹する
担当課長 幸せと誇りを実感できる風土づくりを進める



中野隆夫議員

は森林セラピーソサエティと協力して受け入れたい。

町長 子供達を元気づけたい。赤沢きょうにしたい。赤沢の利用に配慮するほか、スポーツ交流を検討したい。

確保・定住環境整備等、多面的に過疎対策を講じる。空家対策も、需給やニーズを把握し商店等と連携して対処する。観光を軸に農業と一体化した第六次産業開発も視野に置く。次世代を育て輩出してきた実績を誇る当町だ。若者が定着する政策を講じ、町民が誇りのもてる風土づくりを住民と共に地道に進める。

問① 町政ビジョン「観光」を主に成果を問う。衰退の一途にある町の課題を共有し、皆で回復したい。

町長 観光を軸に過疎対策に取り組んだ。観光は相手もあり、成果は道半ばだ。住民の評価にゆだねたい。従来の行政を見直しつつ、地元資源も掘り起し、雇用

システムの限界に起因する。上松教育建設の方針も併せて問う。

教育長 子どもは町を誇り将来を生きる力をつけてきた。背景には町の豊かな自然、住民の温かい人情等、町の環境と町内学校の連携教育や学校間の交流指導等の努力がある。今後この基調を堅持し改善も進める。

問③ i 町民の健康づくりの現状と方針を問う。高額医療者救済用に「重病予防早見表」を作成活用する仕組みができないか。

住民福祉課長 人工透析の進行を遅らせる「早見表」を作成活用した成功例がある。そのソフトを使い、町民が健康状態を目で見てわかる体制を来年導入する。

問③ ii ポリオ予防接種に「不活化ワクチン」の公費導入の方針を問う。

住民福祉課長 予防接種法で「生ワクチン」を接種している現在だが、「不活化ワクチン」が認定される見通しだ。「生」は五百万、六百万分の一の感染リスクがあり、「不活化」の方が

安全とされるが、副作用被害救済制度が適用されず公費補助もない現状だ。当町は法に従って対処する。

問③ iii 放射線被害への備えの現状を問う。

住民福祉課長 「ヨウ素剤備蓄」は原子力安全委員の「原子力施設の保有県は防災対策を充実せよ」に本県は該当せず、生産も追いつかないので一自治体独自の対応は困難だ。「線量測定」は実施中。町では役場と学校と保育園に各一台の機器を配備済。「専門家の助言体制」は構築中。「県の危機防災計画・木曾の災害時医療救護活動マニュアル」が改定されるまでは信大や同病院の助言を得る。



主要施策の報告が行われた行政懇談会

臨時議会報告

十一月二十八日開催

◎一般職の職員の給与に関する条例の一部改正

〔一般職の職員の月例給について人事院勧告に伴い、平均〇・二三％、金額にして月額三百円から二千円の範囲で引き下げを行う。〕

主な質疑応答

問 職員組合に内容を説明して、了解を得てあるか。

答 組合では減額はまかりならんという要求で平行線となっているが一応伝えてある。

問 大変景気が疲弊している時だからしょうがないと下げて行くと、買い物も含め地域の経済の悪化にならないか。

答 大幅な減額は家族、地域の経済、国の経済にも大きく影響をすると懸念している。

問 民主党の七・八％引き下げ法案が成立した場合の、ラスパイレス指数はどうなるか。

答 試算をしていないが、二十二年度は九四・三％である。

問 ワーキングプアの平均年収が二百二十万円で役員

木曾南部土砂防災ネットワーキング 議員連盟(総会)

十月十七日開催

副会長に村上議長が選ばれ規約の一部が改正された。引き続き一〇周年記念講演会が行われた。

全員協議会

十二月十六日開催

一、水道の料金改定に関する条例の一部改正について ◎標準家庭で月額二六六円の増額が予想される。

平成二十四年五月一日実施 一、公民館・社会体育館大規模改修工事について ◎耐震補強にあわせて施設の機能向上のための大規模改修に着手する。

主な質疑応答

◇水道の料金改定

問 試算を見ると平成二十九年にはもう一度料金改定が必要か。

答 平成二十七年度には大規模的な事業が終わり、維持管理費が主になる。節減

してならないように努力する。

問 下水道料金も同じように上がるのか。

答 特に問題が起きない限り上げない。

問 滞納者はいるか。

答 給水停止処置を行うようにならなくなった。

問 値上げをする前にどのような努力をしてきたか。

答 経費の節減は可能な限り努力した。設備投資はやむをえない事業で、使用量で賄うのが基本なので、自分の負担をお願いする。

問 浄水場が新しくなり、有収量は改善されたか。

答 十月二十五日に水道の切り替えを行った。今のところ変わっていない。荒田

浄水場では余った水を捨てる事がない施設となっている。

◇公民館大規模改修工事

問 当該設計業者は保育園を設計した時に、高額な変更契約をした会社が大丈夫か。

答 プロポーザルのアイデアを検討委員会で十分に審

議した中での採用で、前回の教訓をいかし厳しく町の考え方を徹底して行く。

問 住宅供給公社のアドバイスを受けている。

問 体育館のステージは無くすのか。

答 無くして移動式の物を検討をしている。

問 緊急避難時の機能はどうするか。

答 発電施設、貯水槽も設置したいが予算がないので、後の年に財源を確保し

て考えて行く。

問 改修が完成して何年使用可能か。

答 打ち合わせでは二十年は可能となっている。

問 教育委員会はそのままの状態で置くのか。

答 今の段階ではこのままです。

問 照明機器のLEDは全館使用できるか。

答 提案の中では一部の使用となっているが、設計を進めて行く中で検討する。



木曾南部土砂防ネット総会

職員の平均年収五百四十二万三千円であるが、町民のためにどんな貢献が出来るか認識は持っているか。職員もしっかりとした仕事で、住民の皆さんにお返しいて行く事が大事。



公民館と社会体育館

選挙管理委員及び 補充員の選挙

選挙の結果次の方々に決まりました。宜しくお願ひします。

○選挙管理委員

- ・梅本 秀雄氏
- ・上田 文昭氏
- ・松田 博夫氏
- ・寺田 武英氏

○同補充員

- ・黒田 一巳氏
- ・大戸 巧氏
- ・梅本 弘氏
- ・中畑 清子氏

議員 発議

発議第十二号

国土交通省の地方出先機関の存続を求める意見書
↓全会一致で採択

◎意見書

「大規模災害に備え、国の責任において広域かつ

一元的な危機管理体制を確保するために、国土交通省の地方出先機関の存続を求める。」

◎提出先

・衆参議院議長・内閣総理大臣・総務大臣・財務大臣・国土交通大臣・内閣府特命大臣・民主党幹事長

陳 情

今議会での案件は一件です。

陳情第四号↓継続審査
木曾獺友会への支援の拡充を求める陳情

議会報の訂正

議会報一二九号の三ページ四段目、二七行目の記載に間違いがありました。お詫ひし、次のように訂正します。

誤 『会議』を

←

正 『業種』に訂正します。

町民懇談会 開催!

夜間、ご多忙の中、ご参加くださった皆さま、有難うございました。

議会への「叱咤激励」をいただき、私たちは元氣百倍です。議員の使命をまっとうできますようつとめます。

この会はみなさまの声を町政に反映させる「住民と共に生きる開かれた議会」という議会基本条例（平成二十三年三月制定）の趣旨にのっとり行うものです。

期日 十一月十一日
時間 午後七時〜
場所 勤労者福祉センター
参加者 三十人
内容

- ①議長あいさつ
- ②議会基本条例の説明
- ③議員自己紹介
- ④懇談

○主な懇談内容
*（ここでは概要をお知らせします。）

- ・アメリカシロヒトリ等害虫の発生は住民生活に深刻だ。早目に適切に駆除対策を。
- ・学童保育は見守りの精神が肝要だ。
- ・議員はボランティア精神の発揮が不可欠だ。
- ・町の古い例規集等の見直しを。
- ・議決後の確実な行政チェック、検証を。議会は機能を高める。
- ・役場庁舎の建設は、住民の声を十分に聞いて進めることが先決だ。
- ・駅前商店街の活性化は、検討委員会等を立ち上げ、町の将来展望を構築して進めること。
- ・人口減に歯止めがかからない。町は衰退するばかりだ。人口減対策こそ優先すべきだ。
- ・各議員が抱く「活性化策」はいかがか？（議員各自の個人的展望を述べた。）
- ↓人口減対策・雇用促進

今後も行います!

策・定住策・町の強みを生かした策等。

「開かれた議会・住民と共に生きる議会」をめざし今後も「町民懇談会」を行います。

「繰り返すことで、町民の関心が高まる」とのアンケート（回答）にあったように。

次回からも・・・大勢の皆様にご参加いただき、充実した懇談ができましたよう努力します。



木曾広域連合議会第4回定例会報告 (11月22日開催)

【審議内容】

①議案第21号 議会議員の議員報酬、特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正

委員会委員の報酬を規定、非常勤公務災害補償の対象とする。

②議案第22号 木曾地域高度情報化施設の設置及び管理運営に関する条例の一部改正

木曾広域ケーブルテレビ自主放送の広告、宣伝を始めるための広告料金の新規設定

③議案第23号 木曾広域連合職員の給与に関する条例の一部改正

人事院勧告に基づく改正

④議案第24号 平成23年度木曾広域連合一般会計補正予算 (第3号)

補正額 51,050千円 予算総額 2,948,019千円

⑤議案第25号 平成23年度木曾広域連合介護保険特別会計補正予算 (第2号)

補正額 1,590千円 予算総額 3,840,908千円

【全員協議会】

- 1 先決処分事項 (和解、損害賠償) の指定について
2 東日本大震災の災害廃棄物の受け入れについて -> 受け入れない
3 ごみ焼却施設の建設進捗状況について -> 委員会で検討 -> 現在の場所に建設
4 第5期介護保険事業計画について -> 平成24~26年度の計画策定
5 生活排水処理基本計画策定業務について

松塩筑木曾老人福祉施設組合議会11月定例会報告 (11月11日開催)

【審議内容】

①議案第1号 平成22年度松塩筑木曾老人福祉施設組一般会計歳入歳出決算認定

決算の概要 歳入 4,699,875千円
歳出 4,630,803千円

②議案第2号 公平委員の選任について

委員3名中、1名が任期満了のため、三村尚志氏を選任した。

③議案第3号 平成23年度松塩筑木曾老人福祉施設組一般会計補正予算 (第1号)

補正前の額 4,561,000千円
補正額 64,900千円
補正後の額 4,625,900千円

(主な内容) 歳入 繰越金 68,070千円
歳出 財政調整基金積立金 34,540千円
臨時職員賃金 18,170千円 燃料費 10,645千円

【全員協議会】

- 1 平成24~26年度実施計画策定について 2 人事管理制度の見直しについて

四年振りに議席を与えられ町政の劣化が一層進んでいる現状に愕然とし過疎化で人口が急減する弊害はこんな形で顕在化するのかなあと気落ちしています。しかし全国の同規模な町村と比較しますと一様でもないようです。町政の要は議会でありその課題は町民と夢を語って共有し能う限り豊かに導く方策を検討研究し政策化してゆくことだと信じます。日本は昨春の東北大災害、福島原発事故による放射能の脅威、幾多の台風被害という未曾有の国難に晒されそのうえ先進国共通の大不況に巻き込まれ回り回って町政の存在意義がいま程問われる時はなかった事態を迎えています。議会も行政側に反問権を認め白熱した議論を重ねること、より良い政策を紡ぎ出し町民の期待に応えられる町政を実現して、心の安らぎとこの町の住民であることを誇り帰属意識さえ持てる上松町へとリードしてゆくべきだと信じます。



(榎木)